

私が「私」に出会う学校



大阪YMCA高校生事業アドバイザー
 ひろの えいじ
博野 英二

私がYMCAの高校生事業にかかわり始めたのは、10年ほど前のことだ。表コミ(大阪YMCA国際専門学校 表現・コミュニケーション学科)からスタートし、3年前にはIHS(同 国際学科)、今年の6月からはYMCA学院高校にも同うようになった。スタッフが知恵と力をあわせて職場運営を行うための会議にアドバイザーとして加えてもらっているのだが、私自身もこのかかわりから生きる力をもらっているように思う。

こんな風を感じるのは、たぶんこの場に一人ひとりが「私らしくあっていい」と感じられる関係性が存在しているからだと思う。受容的な雰囲気の中で、私は自分の感じることや想いを率直に伝えることができる。そして、スタッフも私の発言を受け取り、自分の想いを伝えてくれる。こうして想いがあわさり知恵となり、力となって成果につながっていく。

このような体験が積み重なる中で、私はこの場では自分の一部を押し殺して身をあわせなくていい、自分自身を大切にしたいのだと強く感じるようになった。それだけでなく、互いが自分を大切にしかかわる中で、思いもよらない新たな感じや想いが生まれてくることもある。こうして私は、これまでとは違う新たな「私」と出会う。

同じようにYMCAの学校は、生徒にとっても新たな「私」と出会う場になっていると思う。20世紀のはじめにかけて活躍し「生の哲学者」と呼ばれたティルタイは、私たちが真に個性的な存在として生を全うしていくには、私たちにいかかわり、理解しようとしてくれる相手が必要であることを指摘した。

私たちは、世間一般のものさしで自分を測り、理解してしまいがちである。例えば、学校に行けなくなってしまった生徒は、自分を「普通」から脱落した失敗者のように感じ、自己肯定感を下げることがある。こうした「自分が自分を測るものさし」は、意識せずに身につけたものなので、一人でそれに気づき修正することは難しい。

このような時、自由で安全な雰囲気の中で、受容的かつ率直にかかわってくれる他者がいることは、生きる上で大きな力となる。生徒は安心して自分を試してみる場が与えられて、はじめて自分らしさを表現することができる。スタッフは、こうした生徒を受け容れた上で、感じたこと、思ったことを率直に伝えていく。

「この科目が好きみたいだね」とか「この前の行事ではいきいきし

ていたね」などと確かめる。時には「あなたの今の行動は人に迷惑になると思う」と伝えることもあるかもしれない。こうしたかかわりの中で、生徒は徐々に自分の想いや興味のあること、かかわり方の特徴などに気づいていく。そして、自分自身を測る「ものさし」を自分で築いていく。

教育とは、世間一般のものさしで測られる力を育むことだけではないだろう。それは「その人らしさ」を育むこと、つまりかけがえのない「私」の生きる力を育むことでもある筈だ。言い換えれば、他の誰とも違う「私」に出会い、自己を理解し受け入れ、その「私」を大切にしたい次のステップを歩む力を育むことである。

世間的なものさしで人を測る圧力、そこに身をあわせることを求める圧力が大きくなっているように見えるいま、いろいろな背景を持った生徒たちが「私」に出会うことのできる学校を求めている。そして、このニーズには、一人ひとりが「私らしくあっていい」と感じられる関係性が存在する学校だけが応えることができる。

スタッフの長年の真摯な努力の上に築かれたこうした関係性をベースに、生徒一人ひとりが与えられた「いのち」を大切に、生きていく力を育むこと、これがYMCAの学校が果たしている役割であるように私には思える。こうした観点から、私は今、多様な背景を持つ生徒を受け入れられる学院高校の存在をとても大きく感じている。

INDEX

・私が「私」に出会う学校	1P
・Yボランティア活動紹介 ～高校生事業～ ・YMCAフレッシュ	2P
・グローバルシズンキャンプに参加して ・高齢者詐欺を未然に防止 ・2016年YMCAカレンダー販売案内 ・一般財団法人日本宝くじ協会助成物件のご報告	3P
・食育コラム・大阪YMCA大会2015ご案内 ・ユースリーダー安全支援金寄付者一覧 ・早天祈祷会・会員・賛助会	4P

大阪YMCAの使命

- 大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。
- ボランティア精神はくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代のひとびとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭・地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界のひとびとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

Yボランティア活動紹介

～高校生事業～

YMCA学院高等学校 「わいわいカフェ」の取り組み

かわくち あきのり
YMCA学院高等学校 スタッフ 川口 彰範

「わいわいカフェ」は、学校内で生徒がゆっくりに安心して過ごせる「居場所カフェ」です。昨年度は、若者支援に取り組む外部団体の協力で運営していましたが、今年度からは、学院高校でボランティアを募り、生徒支援の一環として運営することになりました。2～3名のボランティアが飲み物とお菓子を用意した校内の一室で、生徒が気軽に立ち寄れる「居場所」を提供します。

学院高校の在籍生は、約8割が他の高校から転入学・編入学しており、残り約2割の新入学生の多くは中学までに不登校を経験しています。それぞれが何らかの形で、学校や社会との「繋がりにくさ」をもっており、その背景には、友人関係、家族関係、教員との関係など、人間関係での傷つき体験があることがほとんどです。自分と社会との繋がりに目を向けつつ、大人としての自分をつくっていく思春期から青年期の間に、人との関係に安心感をもてるかどうか、ということは、生徒の「育ち」にとって大きな意味を持っています。

わいわいカフェのボランティアに期待されることは、「教員-生徒」「親子」といった役割や立場に縛られない、ある種自由な立ち位置から、生徒一人ひとりと緩やかな関係をもち、生徒が「他者と繋がる力」を育てていけるよう支援することです。カフェに来た生徒が語る言葉に耳を傾け、立ち入りすぎず、離れすぎず、互いの思いを邪魔することなくそこに居ること。単純なようで、実はとても難しいことですが、複雑な環境に置かれていたり、言葉のとらえ方や考え方に個性的な特徴をもつ、生徒一人ひとりのありように応じた気配りが求められる場面も出てきます。

今年度のわいわいカフェは、前期単位認定テスト終了後の8月28日に第1回を実施しました。9月に2回、10月の後期スクーリング開始からは毎週1回の実施を予定しています。

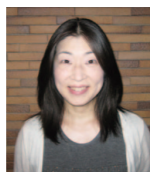
実際に生徒と時間を共に過ごし、一人ひとりに目を配りながら、より効果的な「居場所」づくりを目指したいと思っています。



「わいわいカフェ」

～繋がる居場所～

さかくち ちほ
大阪YMCA Yボランティア(会員) 阪口 千穂



今秋からYMCA学院高等学校(以下高校)で開かれる「わいわいカフェ」のボランティア活動を始めています。

高校の生徒とは、大阪サウスワイズメンズクラブ(以下サウスワイズ)と高校の協働活動である「まち美化活動」で接する機会を得ました。その後、南YMCAで毎年開催されるファミリーカーニバルに、生徒が出店側として参加できればとの思いで、担当教員やマイスペースコースの生徒と共に「たこせん」や「チョコバナナ」を販売し、その収益金を献金しました。サウスワイズからもご協力いただき、ファミリーカーニバルで「たこ焼き」を販売するリーダーOB・OGの店やボランティアメンバーの「五平餅」の店に生徒が参加するなど、南YMCAに集う様々な人々との交流を体験してもらいました。

いずれも生徒が安心して人と関われる体験をし、体験を通じて少しずつ自信を持てるようになればとの思いを抱いての活動です。「わいわいカフェ」でもその思いは変わりません。多種多様な経験を持つ人がYMCAにはいます。人や人との繋がりを大切にしたいYMCAに、生徒が今居ることを生かしてほしい、その一助になればと願っています。先入観や固定観念を持たず、近所や親戚のおばちゃんくらいの、近



すぎ遠すぎずという距離感で関わるのが良いと思っています。注意深く見守りつつ、よい意味での自然体で一度一度の生徒との関わりを大切にしていきたいと思っています。

YMCA フレッシュ

～あなたが、あなたと出会う場所～

こだいら ゆめこ
YMCA学院高等学校 スタッフ 小平 夢子

私は保健体育やウェルネス系列の授業、3年次生の担任、広報や教務などを担当しています。授業では、少しでも身体を動かすことを好きになってもらえるように工夫をしています。担任としては、生徒たちが進学や就職、留学などの希望を叶えられるように一緒に考えています。

YMCA学院高校のパンフレットの表紙には、「あなたが、あなたと出会う場所」と書かれています。一般的には、「新しいあなたと出会う場所」や「違うあなたを見つける場所」と書かれていることが多くあります。しかし、そのように表現してしまうと、「今のあなた」を否定することになってしまいます。私たちは、学院高校に足を運ぶ全ての生徒に、今の自分ともっと仲良くなってほしい、そして今の自分を認められるようになってほしい、と願っています。全ての生徒が今の自分に自信を持って、これからの歩みを進めていけるように寄り添っていきたくと思っています。

多くの人々と出会うことができるYMCAの高校だからこそ、国内外のネットワークを生かして、たくさんのプログラムを実施していきたいです。そして、一人でも多くの生徒に、卒業する時、「YMCAに来て良かった!」と自信をもって言ってもらえるような場所を目指します。人との出会いが人を成長させます。YMCAが生徒たちだけでなく、私たちスタッフにとっても、多くの出会いと成長の場となるように日々歩んで行きたいと思っています。



◎YMCA学院高校の教員(前列左から2人目が小平さん)

経験することの大切さ

～グローバルシチズンキャンプに参加して～

大阪YMCA国際専門学校
国際学科(IHS)1年 さくらい かの
櫻井 香之



私は、5日間のグローバルシチズンキャンプに香港メンバー14名、日本メンバー15名と共に参加しました。初めは何を話したら良いかわからず、ただなんとなく相槌を打つことしかできませんでした。しかし、そんな壁を無くすには、たくさんの経験が大切なのだと思います。

私たちは、グループに分かれて京都観光をしました。京都までの電車の中で、広東語をたくさん教えてもらって、徐々に英語、広東語、日本語を交えて話すようになりました。聞き取れなくて何度も聞き直しましたが、香港のメンバーは嫌な顔ひとつせず、根気よく私に伝えてくれました。他愛もない話だったかもしれませんが、私には大きな宝物です。

また、ホームレスの人たちの状況を見に西成区へ行った時のことです。熱中症にかかってもおかしくないほどの暑さの中、ホームレスの方々が、ある公園にお昼の配給のために行列をつつて集まっていた。それを見た時、衝撃を受けました。日本にこんなところがあるのかと。先進国である日本がこういう状況なら、開発途上国はもっと残酷なのだろうと感じました。知らないというのは知ることより恐ろしいと、その時感じました。

その後、私たちは山王子どもセンターの子どもたちと交流会を行いました。

した。3つのグループに分かれて、どうやって子どもたちが喜んでくれるかを考えました。特に人気だった遊びは、「ざぶじん」(座布団で陣取るもの)という遊びでした。みんなどんなに小さいことでも喜んでくれて、私も嬉しくなりました。香港のメンバーも「彼ら彼女らの笑顔が自分達に力を与えてくれたんだ」と言っていました。まさにそうだと思います。

これからきっと沢山の機会があります。私はいろんなボランティアに参加し、一つひとつの経験を少しでも「これから」に生かしていきたいと思っています。



香港グローバルシチズンキャンプとは・・・

香港中華YMCAと大阪YMCAに関わるコースが集い、毎年交流を深めているプログラムです。2012年に始まり、1年ごとに香港と日本を行き来しています。今年は8/15～20に大阪で、「Social Service」をテーマに学びを深めました。社会的な支えが必要な人たちのことを共に考え、現場でその子どもたちとの交流を企画し、活動を行ってきました。

高齢者詐欺を未然に防止

～布施警察署より感謝状～

大阪YMCAサンホーム地域包括支援センターの宮本ルミ子スタッフが高齢者詐欺を未然に防止したことで、布施警察署より感謝状を贈呈されました。

地域包括支援センターは、主任介護支援専門員、社会福祉士、保健師もしくは、経験のある看護師の配属が必須とされており、地域の相談総合窓口の役割を担っています。宮本スタッフは、このセンターで、主に利用者のご自宅を訪問し、近況を伺ったり、介護保険サービスの調整を行ったりと介護支援専門員として従事しています。

今回の経緯は、宮本スタッフが訪問業務からの帰り道で、近くにお住まいの利用者が自転車で出かけるところに遭遇。声をかけると非常に動揺した様子で、「今はそれどころじゃない。500万円用意せなあかんねん。息子の電話番号も変わってるし・・・」と慌てて飛び出して行かれ

たそうです。サンホームに戻った後、すぐにチームメンバーと相談し、高齢者詐欺ではないかと判断して警察に通報。ご本人の携帯電話に何度も連絡するもなかなか繋がらず、ようやく連絡がついた時には、新幹線で東京駅まで現金を持って向かうとする新大阪駅の手前だったようで、その後、無事にご本人とお会いすることができました。犯人の検挙には至りませんでしたが、詐欺を未然に防ぐことができました。お会いした時、ご本人は、なかなか詐欺であることを認めようとしなかったそうです。

このような詐欺を「上京型詐欺」というそうですが、その他にも、「オレオレ詐欺」、「架空請求詐欺」、「還付金詐欺」など高齢者を狙った振り込め詐欺は、後を絶ちません。

サンホーム地域包括支援センターとしても、今後も啓発に努め続けてまいります。



◎布施警察署より感謝状を贈呈される宮本スタッフ

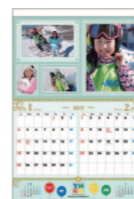
2016年YMCAカレンダー販売します!!

子ども達の笑顔がいっぱいのYMCAカレンダーを、今年も販売いたします。皆様のお申し込みをお待ちしております。

価格：1部880円(税込、送料別途)
形状：A2版(625mm×420mm)、7枚(表紙1、本紙6)、フルカラー
申込み：大阪YMCAホームページより申込書をダウンロードして、メールかFAXでお送りいただくか、下記連絡先までお電話ください。

申込み締め切り：10月13日(火)

問合せ 大阪YMCA 本部事務局 総務部
http://www.osakaymca.or.jp/ [E-mail] info@osakaymca.org
[TEL] 06-6441-0894 [FAX] 06-6445-0297



◎(ご参考) 2015年カレンダー

一般財団法人日本宝くじ協会 助成物件のご報告

例年、大阪YMCAでは日本宝くじ協会の助成によりテントをご寄贈いただいています。本年度はYMCAたかつきあま保育園など、11拠点に集会用テント、宿泊用テント計27張を寄贈いただきました。日々のプログラムなど活動の場において、参加者が憩うことができるよう様々な活用させていただいております。感謝をもってご報告させていただきます。



みんな大好き!おやつのパワー

おおいし かずひで
YMCAサンホーム 食生活創造室 スタッフ **大石 和秀**

一息ついて気分をリフレッシュしたい時に、ちょっと食べたくなる甘いもの。お腹も心も満たしてくれるおやつは、みんなを幸せにしてくれます。

おやつとは

漢字で書くと「御八つ」。これは江戸時代の午後二時から午後四時までの間を「八つ時」と呼んでいたことに由来します。八つ時とっていた軽い間食が、やがて「おやつ」と呼ばれるようになりました。

子どもにとってのおやつ、大人にとってのおやつ

体の小さい子どもは、成長に必要な栄養を一日三食の食事だけでは十分にとることができません。3食で足りない分を補食として食べます。一方、3食でエネルギーを摂取できる大人にとってのおやつは、息抜きや気持ちをリフレッシュする効果があり、作業効率等の向上が期待できます。

かしこいおやつの食べ方

おやつには、3食の食事に不足しがちな栄養素を選んで食べるのがお勧めです。日本人に不足しがちなカルシウムを補うには、ヨーグルトやチーズなどの乳製品を。ドライフルーツやナッツ類は、ビタミンや食物繊維を多く含みます。カロリーの取りすぎを防ぐため、小皿に取り分けたり、個包装のお菓子を選ぶようにしましょう。また、「ダラダラ食い」や「ながら食い」は、虫歯や晩ごはんが食べられなくなる原因ですのでやめましょう。

心も喜ぶおやつの時間

「おいしいものを食べるときに怒りながら食べる人はいない」という言葉があります。おいしいおやつを囲んで親子や仲間たちでワイワイとおしゃべりすることは、周りの人とのコミュニケーションのきっかけになり、健康な心を育みます。



デイサービス「食を楽しむ会」でのおやつ作り。利用者の皆さんと協力して、季節のおやつを作ります。



おいしいおやつを食べながら、自然と笑顔があふれます。

- (参考) ■ 一般社団法人 日本おやつ協会「おやつの定義」
<http://www.oyatsu-daisuki.com/>
■ 農林水産省 子どもの食育 確かめよう!自分の一日「おやつの工夫」
http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/kodomo_navi/oneday/
■ 農文協 うかたま vol.21「おやつノート」

大阪YMCA大会2015のご案内(第2報)

～世界とつながる!世界に広がる!～

日時… 2015年11月28日(土)
場所… 大阪YMCA会館(土佐堀)

世界とつながるユースフォーラム (10:30~12:30)

YMCAのさまざまな国際プログラムに参加したユースが集まって、経験をシェアして共に考える時をもちます。あなたもユースとともに「グローバル」な世界へ飛び出しませんか?



会員表彰式・事業報告・奨学金授与式など (13:30~15:30)

ユースリーダー安全支援金寄付者 ご協力に感謝申し上げます。

第2回報告(2015年8月度) 敬称略

- | | | | | |
|---|--|---|--|---|
| 青野 さくら
青松 和枝
松元 美緒
秋山 健二
東 雄人
阿部 静子
荒賀 めぐみ
東里 裕子
池田 衣里
石川 慶子
石田 恵理
石橋 彩実
石橋 基文
伊藤 京子
伊藤 欽矢
今井 裕
井村 玉恵
岩井 利早
岩坂 正雄
岩下 寛子
岩田 晋
岩永 和子
岩間 幹雄
岩元 由美子
上田 水恵
上床 敦
上西 卓
上西 萌衣
上野 綾子
上原 悦子
植松 麻衣
上村 五月
上山 恵美子
鶴川 まり子
鶴崎 帆南
内田 久美子
卯津羅 陽子
梅田 正俊
浦川 哲也
大石 和秀
大阪センテ
ニアルクラブ | 大阪土佐堀
ワズメズクラブ
大里 由恵
大澤 美奈子
大嶋 定子
大塚 由実
大西 可奈子
大野 真由美
大橋 昌美
大道 真央
岡田 美枝子
岡村 千陰
岡村 真
岡本 夏実
小川 久美子
尾北 昇
奥 美結希
小島 英恵
梶 真子
鹿嶋 靖之
片山 忍
片寄 絵未
加藤 亜津美
金巻 美玲
金城 宗和
狩野 直敏
川良 昌宏
菅 まどか
岸下 幸美
木田 泰之
北澤 圭太郎
北野 瑞季
木下 浩美
金 利紗
木山 敦子
切通 菜摘
桐原 拓
クオン スンボム
久保田 美代子
黒田 晴香
高鶴 佳代子
高鶴 佐智子 | 小島 栄子
小島 フクミ
小寺 規久子
後藤 淳子
小西 和子
小西 雄希
小林 智恵
小山 久子
酒井 佐和子
境 知春
坂井 祐菜
坂江 京子
坂之上 範子
坂本 安世
佐竹 博
鮫嶋 知子
澤野 準司
四方 陽子
重信 直人
高岡 正明
下村 崇史
霜山 綾子
清家 球平
杉原 育夫
杉村 徹
杉山 光美
鈴木 絹子
隅田 薫
瀬川 真以
平良 勇人
高橋 京子
高橋 由美
高橋 梨恵
高光 晶子
瀧中 慎介
武田 龍一
竹中 豊明
田崎 久子
田中 厚至
田中 真一
谷川 美世波
谷口 明美 | 塚口 景子
月川 智宏
辻井 豊昭
寺川 麻実
寺下 祐子
土居 香菜子
堂本 隆子
時 岳史
土佐野 みどり
内藤 ますみ
中井 則子
中井 正博
中西 景子
中西 千尋
中野 義彦
長野 章子
仲原 成岳
中村 美紀
中村 友紀
中元 直美
西浦 玲
西村 麻衣
新田 展子
二宮 聡
野口 賢太郎
箱崎 翔子
橋本 彬
橋本 啓
長谷川 雄大
花野 伴子
林 博彦
林田 充子
原田 みな美
平井 あつ子
平井 千春
平野 有梨佳
弘田 優子
福井 来香
藤岡 宏樹
藤川 信子
藤崎 優希
藤原 彩 | 藤原 裕美
藤原 学
船越 将吾
外園 順子
牧瀬 由佳
牧村 昭一
松尾 朋巳
松坂 佳江
松田 克美
松野 匡子
松本 かほる
丸尾 欽造
三木 房子
水越 郁代
南川 恵美子
三宅 玲子
宮原 学
宮本 修司
宮本 ルミ子
森井 すみ子
森井 稔輝
森本 信子
盛矢 詳
八木 恒朗
矢田 翔梧
矢野 成悟
矢野 優輔
山内 淳子
山口 恭平
山下 葉奈
山下 幸枝
山本 尚美
横田 憲子
横山 まどか
吉田 絵理
吉田 洋子
吉村 みどり
若林 美帆
若村 亜野
鷺見 ちひろ
和田 千夏 |
|---|--|---|--|---|

第270回 大阪YMCA早天祈祷会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAの様々な場で活動されている方々にお話をいただき、人生の歩みを分かちあう恵みの時としています。

日時… 2015年10月16日(金) 7:30~8:30

奨励… ^{リン ミオン}林 美恩さん(日本キリスト教団岡本教会 宣教師)

場所… 大阪YMCA会館 10階 チャペル

問合せ 大阪YMCA 本部事務局 総務
【TEL】06(6441)0894 【E-mail】info@osakaymca.org

会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2015年8月度報告

- | | | | |
|--|--|--|--|
| 【新規会員】
石木 茉莉
岡本 真美
金谷 美穂
柴田 一希
西浦 玲
福家 可那子
三好 蘭
森口 葵 | 【継続会員】
石谷 瞳
宇埜 充洋
梶 真子
桐原 拓
神前 順次
鷺山 将一
瀬川 真以
高橋 沙保里
高橋 智 | 田尻 忠邦
富田 泰子
中井 正博
中川 善博
浜崎 正三
船越 将吾
堀 有輝子
松川 晟可
峯本 惠子
村田 夏紀 | 横田 允宏
横田 憲子
【継続賛助会員】
株式会社扇谷
社会福祉法人関西のちの電話
象印マホービン株式会社
株式会社テツタニ
延原倉庫株式会社 |
|--|--|--|--|